

古伊万里カラーパレット—絵具編—

The Colors of Old Imari: Rainbow in a Brush

いろどり・はなやぐ 絵具の世界



展覧会『古伊万里カラーパレット』は江戸時代の伊万里焼の「色」を特集した、夏秋連続企画展示です。後期の秋季にあたる今展では、伊万里焼に施される装飾のうち、絵具による色に注目します。

伊万里焼の製作上、絵具を使用して文様を描く工程は、「下絵付け」と「上絵付け」の2種類があります。下絵付けの代表が呉須絵具を使用する染付け。磁肌の白色に対する文様の青色のコントラストが染付磁器の魅力です。上絵付けでは赤・黄・緑など様々な色の上絵具を使用し、カラフルな色絵磁器となります。これらの呉須絵具や上絵具を駆使して、豊かな装飾をまとった伊万里焼が生み出されました。

今展では、白い磁肌に映える青、赤、黄、緑、黒、金など、各色の時代による移り変わりや、色の組み合わせの妙を掘り下げます。館蔵品から厳選した彩り豊かな伊万里焼、約80点をお楽しみください。

展覧会情報

- ◇ 名称：古伊万里カラーパレット—絵具編—
- ◇ 会期：2025年10月10日(金)～12月21日(日)
- ◇ 開館時間：10:00～17:00(入館受付は16:30まで)
※金曜・土曜は10:00～20:00(入館受付は19:30まで)
- ◇ 休館日：月曜・火曜
※10月13日(月・祝)、10月14日(火)、11月3日(月・祝)、11月24日(月・振休)は開館。
- ◇ 入館料：一般1,200円/高大生500円 ※中学生以下は入館料無料。
※10月14日(火)は創設者 戸栗 亨のメモリアルデーのため、無料開館いたします。
- ◇ 会場：戸栗美術館(東京都渋谷区松濤1-11-3)
- ◇ 交通：渋谷駅ハチ公口より徒歩15分・地下鉄A2出口より徒歩12分
京王井の頭線 神泉駅北口より徒歩10分
当館には駐車場はございません。近隣のコインパーキングをご利用ください。

◆ 第1章「絵具の色」（第1展示室）

こちらの展示室ではそれぞれの絵具の色に着目して作品をご紹介します。技術発展や様式変遷とともに移り変わる絵具の色にご注目ください。

呉須絵具と上絵具

いずれの絵具も酸化金属を発色元とし、焼成することで初めて目指す色に発色します。

呉須絵具は酸化コバルトによって青色に発色。上絵具はフリット・鉛白・酸化金属の3つの要素で構成され、例えば赤は鉄、緑は銅など、酸化金属の種類によって得られる色は異なります。



画像① 色絵 桐亀甲文 輪花皿▲

伊万里
江戸時代(17世紀末～18世紀初)
口径 34.2cm
染付の青と上絵の赤・黄・緑などでカラフルに絵付けした優品。



◇ 青

青には、下絵付けと上絵付けの両方があります。上絵付けの場合は色ガラス状でより鮮やかに発色し、面を塗る濃に使用されます。下絵付けの青（染付）は線描きにも濃にも使うことができ、技法も豊富です。

◀画像② 染付 松樹鳳凰文 甕

伊万里 江戸時代(17世紀後半) 高 27.0cm
濃淡やぼかし濃など、技法を駆使した染付が見どころ。



◇ 赤

上絵付けの赤は線描きにも濃にも使用され、濃淡をつけることも可能です。時代による色調の変化が顕著です。なお、例外的に辰砂と呼ばれる下絵付けの赤も存在します。

◀画像③ 色絵 双鶴文 輪花皿

伊万里(柿右衛門様式) 江戸時代(17世紀後半)
口径 22.5cm

17世紀後半の柿右衛門様式の時代特有の、朱色のような明るい赤色が華やかです。



◇ 緑・黄・紫

いずれも上絵付けに使用します。とくに緑は色合いに幅があり、黄緑や青緑などが見られます。

◀画像④ 色絵 牡丹文 水注

伊万里 江戸時代(17世紀後半) 通高 34.8cm

濃厚さを残した赤・黄・緑が器形と相まって異国情緒を漂わせます。

◇ その他、黒、金・銀など

◆ 第2章「色の取り合わせ」(第2展示室)

伊万里焼の絵具は色によって線が描きやすいか否か、濃淡が付けられるかなど、それぞれ特性が異なります。各色の特性を踏まえ、工夫しながら組み合わせせて器面を彩っています。



◇ 4色で組む趣

面の塗り埋めには赤・黄・緑・青の4色がよく使用されます。その基本の4色は輪郭線の色、絵具自体の色調、青は下絵か上絵かなどによって趣が異なります。



◀ (左) 色絵 丸文 葉形皿

伊万里 (古九谷様式)
江戸時代 (17世紀中期)
口径 16.5×14.1cm

◀ (右) 色絵 貝形蓋物

伊万里 (柿右衛門様式)
江戸時代 (17世紀後半) 長 22.5cm

左は染付の青と上絵の赤、黄、緑でしつとりと、右は全て上絵で、明るい赤色と緑、黄、青で鮮やかに仕上げています。



◇ 5色以上で作る彩り

赤・黄・緑・青の4色のほかにも、紫や金、銀などが使われます。各絵具は最適な焼成温度が異なり、多色で彩られる作品は焼成の難易度も高いと言えるでしょう。

◀ 画像⑤ 色絵 獅子牡丹菊梅文 蓋付壺

伊万里 江戸時代 (17世紀末～18世紀前半)
通高 74.6cm

染付の青、上絵の赤・黄・緑・紫・金で豪華に絵付けを施しています。



◇ 3色以下でみせる風情

黄・緑の2色、染付の青1色など、面を塗るのに1～3色しか使用していない作品もあります。少ない色数でも驚くべき意匠を生み出しています。



◀ (左) 画像⑥ 色絵 柏樹鳥文 皿

伊万里 (古九谷様式)
江戸時代 (17世紀中期)
口径 32.8cm

◀ (右) 染付 花唐草文 瓢形瓶

伊万里 高 31.8cm
江戸時代 (17世紀末～18世紀初)

左は黄と緑、右は染付の青のみで印象深い意匠を作り上げています。

展覧会紹介文

- ◇ 絵具の色による装飾に注目し、館蔵の伊万里焼約 80 点を出展。(29 字)
- ◇ 『古伊万里カラーパレット』は江戸時代の伊万里焼の「色」を特集した夏秋連続企画展示。後期にあたる今展では、絵具の色による装飾に注目する。色絵や染付など館蔵品から厳選した伊万里焼約 80 点を出展する。(97 字)
- ◇ 『古伊万里カラーパレット』は江戸時代の伊万里焼の「色」を特集した夏秋連続企画展示。後期にあたる今展では、絵具の色による装飾に注目する。伊万里焼では、染付磁器には青色となる呉須絵具、色絵磁器には赤や黄などカラフルな上絵具が用いられた。それらが単体で、あるいは組み合わせられることで、多彩な装飾が生み出されている。今展では、白い磁肌に映える青、赤、黄、緑、黒、金など、それぞれの絵具の色合いの時代による移り変わりや、色の組み合わせの妙を掘り下げる。館蔵品から厳選した彩り豊かな伊万里焼約 80 点を出展する。(249 字)

会期中の催し物

- ◇ 展示解説
 - ☐ 10 月 18 日 (土)・12 月 6 日 (土) 各日 14:00 ～ (約 45 分)
 - ☐ 参加費無料 (要入館券) ☐ 予約不要
- ◇ ラウンジ & ギャラリー・トーク
 - ☐ 「古伊万里の絵具―変遷と配色―」(講師：当館学芸員)
 - ☐ 10 月 27 日 (月) 14:00 ～ (約 120 分／要予約・有料)
 - ※当日はご予約の方のみご入館いただけます。
 - ※詳細は当館ホームページをご覧ください。
- ◇ 古伊万里入門解説
 - ☐ 11 月 22 日 (土) 14:00 ～ (約 45 分)
 - ☐ 参加費無料 (要入館券)
 - ☐ 予約不要
 - ※詳細は当館ホームページをご覧ください。

同時開催

- ◇ 『江戸時代の伊万里焼―誕生からの変遷―』(第 3 展示室)
- ◇ 『望月優 真希二人展 ～伝統技法の可能性～』(やきもの展示室)

次回展予告

古伊万里いきもの図会展 2026 年 1 月 8 日(木)～3 月 22 日(日)



染付 魚形皿

伊万里
江戸時代 (17 世紀中期)
口径 16.6×13.2cm

お問い合わせ

公益財団法人 戸栗美術館 広報担当 宛

〒150-0046 東京都渋谷区松濤 1-11-3

TEL : 03-3465-0070 FAX : 03-3467-9813 E-mail : kouhou@toguri-museum.or.jp

公式サイト : <https://www.toguri-museum.or.jp/>